

1984.

- 11) 亀井 隆行：顎嚢胞内溶液における白血球の動態に関する研究－白血球の走化性と $\alpha_1$ Antitrypsinの関連について－.  
弘前医学, 42 : 84-92, 1990.
- 12) 茂田 貫一 他：炎症に対するヒアルロニダーゼの効果について. スプレーゼ文献集, 2-55, 1979.
- 13) 松本 憲明, 莊 正郷, 古城 靖, 他：  
Tobracinによる慢性副鼻腔炎の保存的療法－上顎洞穿刺注入療法について－.  
基礎と臨床, 13: 4-437, 1979.
- 14) T. Bitter, H. M. Muir : A Modified Uronic Acid Carbazole Reaction.  
Anal. Biochem. 4, 330-334, 1962
- 15) 瀬戸口 孝夫 : 組織学実習. 7-13,  
南山堂, 東京, 1979.
- 16) 日本電顕会 : 電子顕微鏡資料作成法  
改訂2版. 3-157, 丸善, 東京, 1975.
- 17) M. Suzuki : Treatment of jaw cysts

- with an irrigational method. Int. J. Oral Surg., 11:217-225, 1982.
- 18) M. Suzuki : Treatment of jaw cysts with an irrigational method (II) - The effect on nature of cyst walls and surrounding bone-. Int. J. Oral Surg., 14 : 408-415, 1985.
- 19) 前山 拓夫, 大山 勝, 大庭 紀雄 : 副鼻腔囊腫の臨床と表面微細構造. 耳喉, 53 : 103-108, 1981.
- 20) 若江 秀敏 : 齒原性嚢胞の走査並びに透過電子顕微鏡的研究. 九州齒会誌, 36(5) : 802-824, 1982.
- 21) 立川 潤 : 術後性上顎嚢胞に関する臨床病理学的研究. 齒科学報, Vol.75 No.9: 1117-1140, 1975.





表 1

## 症例と経過

症例 \ 経過	内容液の粘性と炎症の有無		未手術	縮小後手術	上顎洞根治術に準ずる手術
洗浄例 3 0	粘性 高 炎症(+) 1 5 4(2) 5(4)	高→高 高→低	1 1(1)	3(2) 3(3)	—
	炎症(-) 1 0 7(3)	高→低	3(1)*	4(2)	
	粘性 低 炎症(+) 4 1(3)	低→低	—	1(3)	—
	炎症(-) 1 1		1*	—	
非洗浄 手術例 1 2	粘性 高 炎症(+) 1 0 炎症(-) 2	高	—	—	1 0 2
計 4 3	3 0 (12)		9(2) 2*	2 1(9)	1 2

( ) … ヒアルロニダーゼ使用  
\* … 囊胞消失



## 嚢胞内容液のフィブロンクチン値

試料	成分	フィブロンクチン値(mg/dl) (n:検体数)
末梢血		26.3 (n=20)
嚢胞内容液		
粘性高		
感染(+)		9.3 (n=3)
(-)		15.6 (n=12)
粘性低		
感染(+)		7.5 (n=2)
(-)		11.1 (n=5)

表 2

囊胞壁の光顕・電顕所見

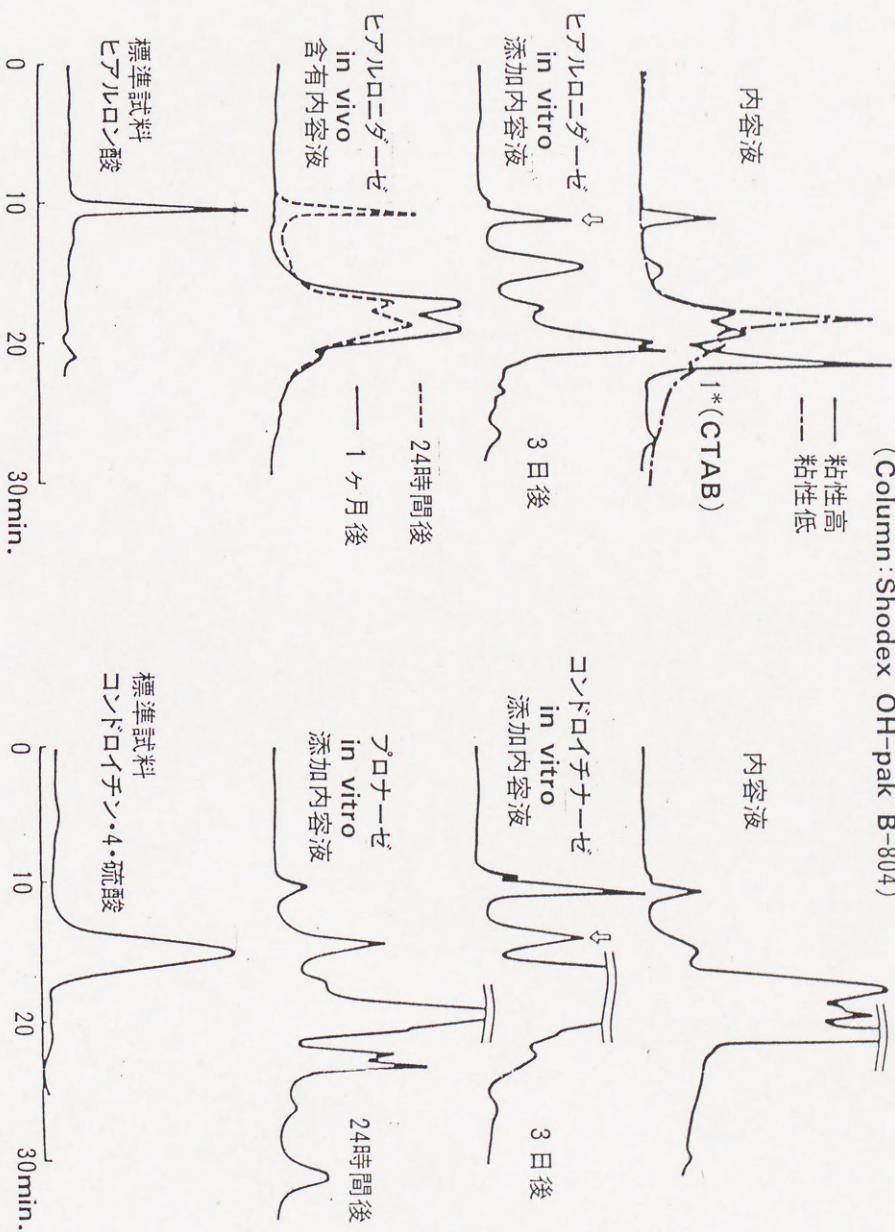
症例	性状	上皮の有無	光顕 基底膜	結合組織	電顕 上皮細胞
洗淨例	初診時 炎症				
17	有	有	肥厚及び変性等 は認めない。	炎症性細胞浸潤は 軽度、もしくは皆 無でコラーゲン線 維の増加が認めら れる。	上皮細胞は隣接細胞との側縁に 微絨毛がみられ、剥離の所見も みられるが、細胞質に変性の兆 候は認められない。
14	有	有	肥厚及び変性等 は認めない。	高度の炎症性細胞 浸潤、毛細血管の 増生を認めるが、 線維化は軽度であ る。	上皮細胞の剥離が進行している 。剥離細胞は、細胞小器官の消 失が強く、変性像を示している。
9	有	有	肥厚及び変性等 は認めない。	高度の炎症性細胞 浸潤、毛細血管の 増生を認めるが、 線維化は軽度であ る。	上皮細胞の剥離が進行している 。剥離細胞は、細胞小器官の消 失が強く、変性像を示している。
非洗淨 手術例					
9	有	有	肥厚及び変性等 は認めない。	高度の炎症性細胞 浸潤、毛細血管の 増生を認めるが、 線維化は軽度であ る。	上皮細胞の剥離が進行している 。剥離細胞は、細胞小器官の消 失が強く、変性像を示している。
	無	無			
0	無	無			
6	無	無			



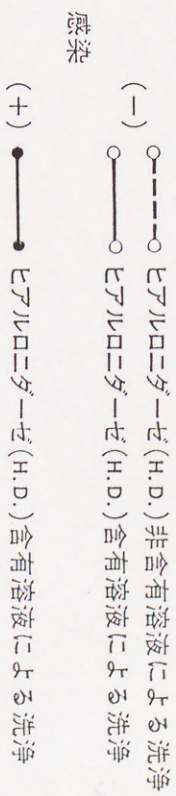


# 囊胞内容液粘性成分の HPLC 分析

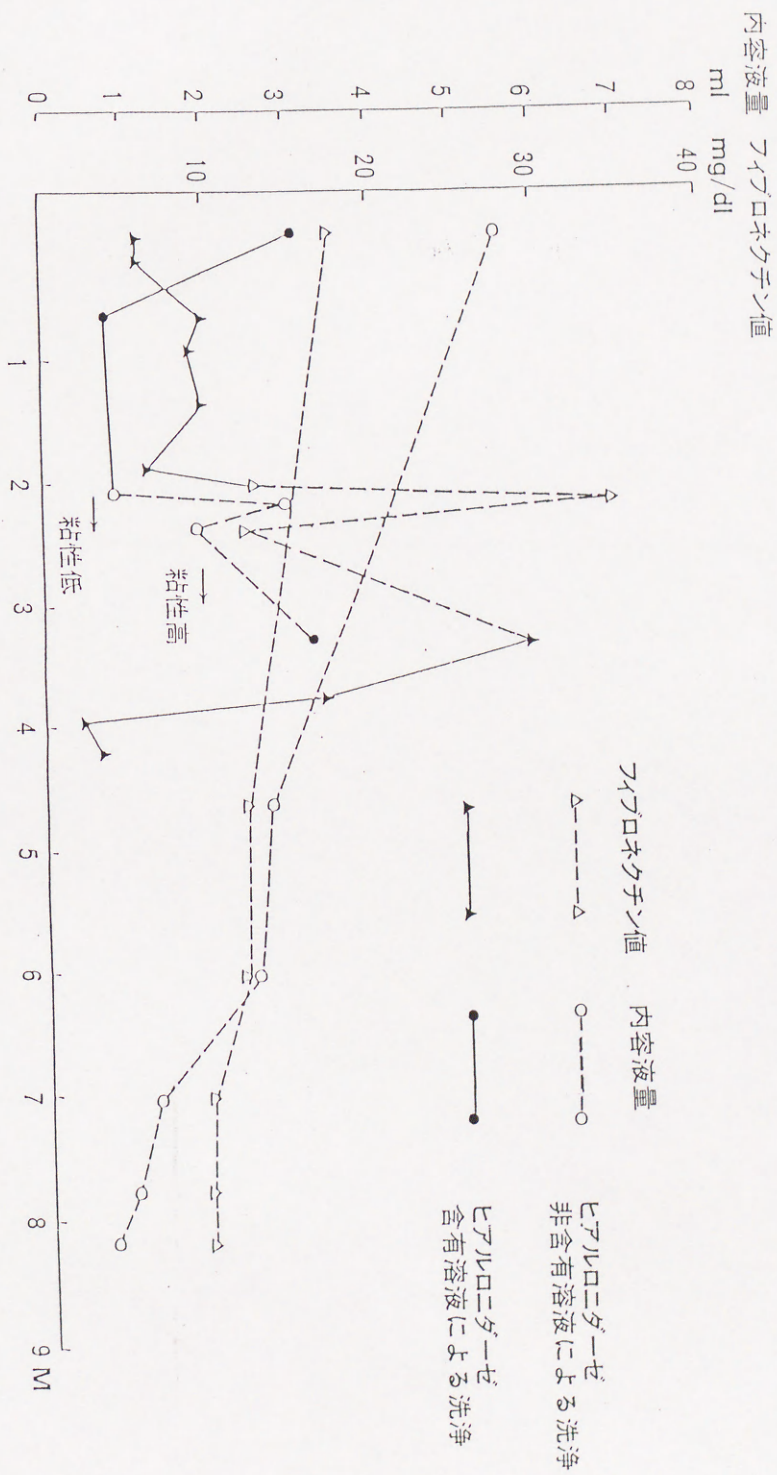
TRI-ROTAR III HPLC system  
 (Column: Shodex OH-pak B-804)



—ヒアルロニダーゼ含有溶液と非含有溶液との比較—

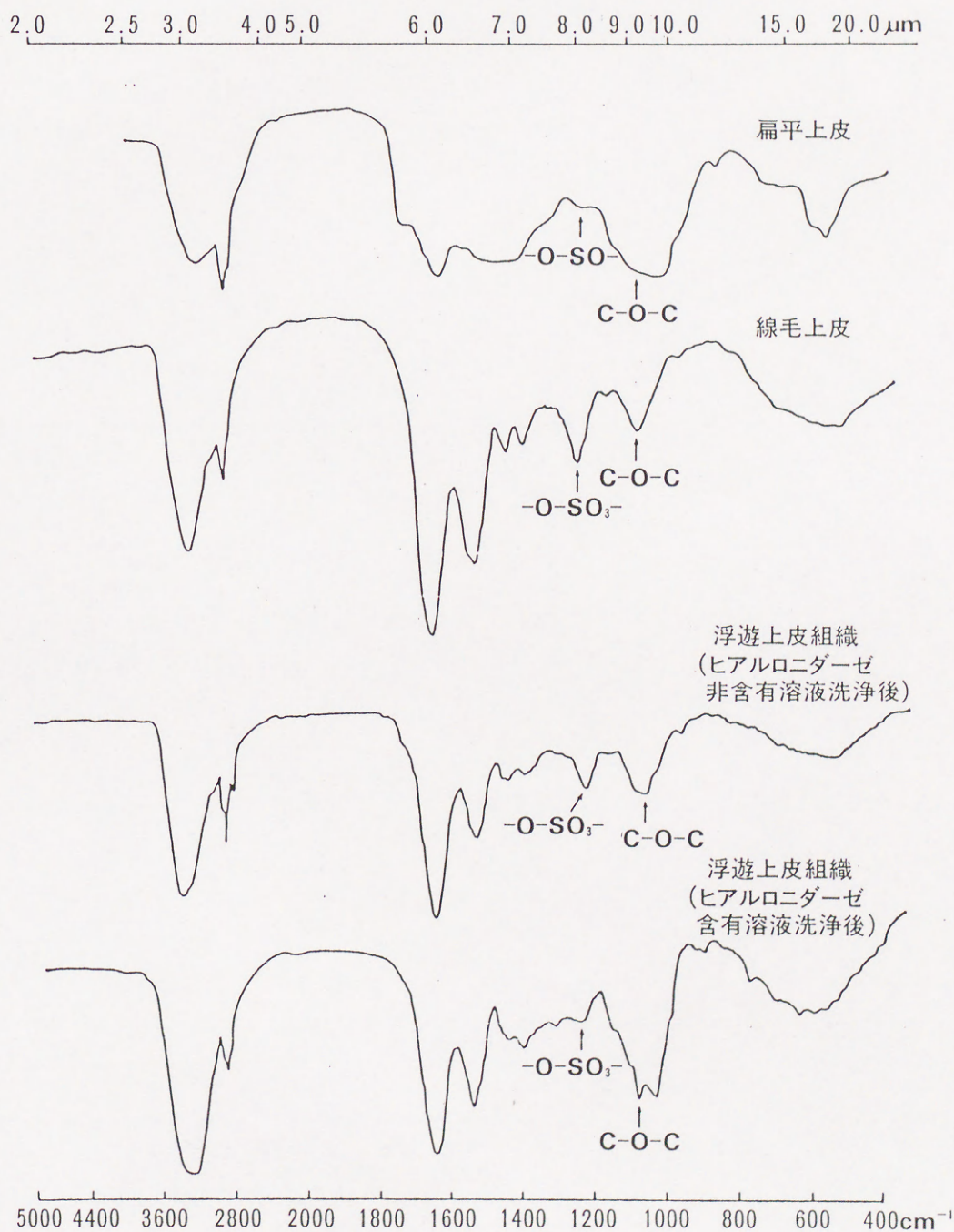


# 嚢胞腔洗浄による内容液量とフィブロネクテン値の推移





# 嚢胞壁と剝離上皮の赤外線スペクトル



寫真

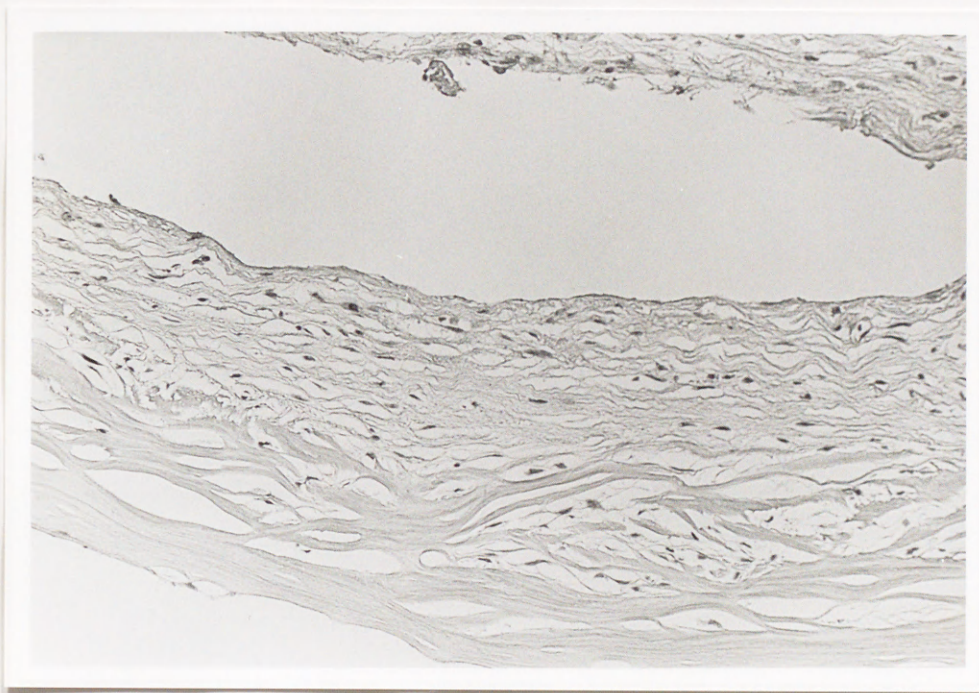




(写真1) ×200 洗浄症例(35回) ♀ 31歳  
炎症 高→低 縮小後摘出術施行

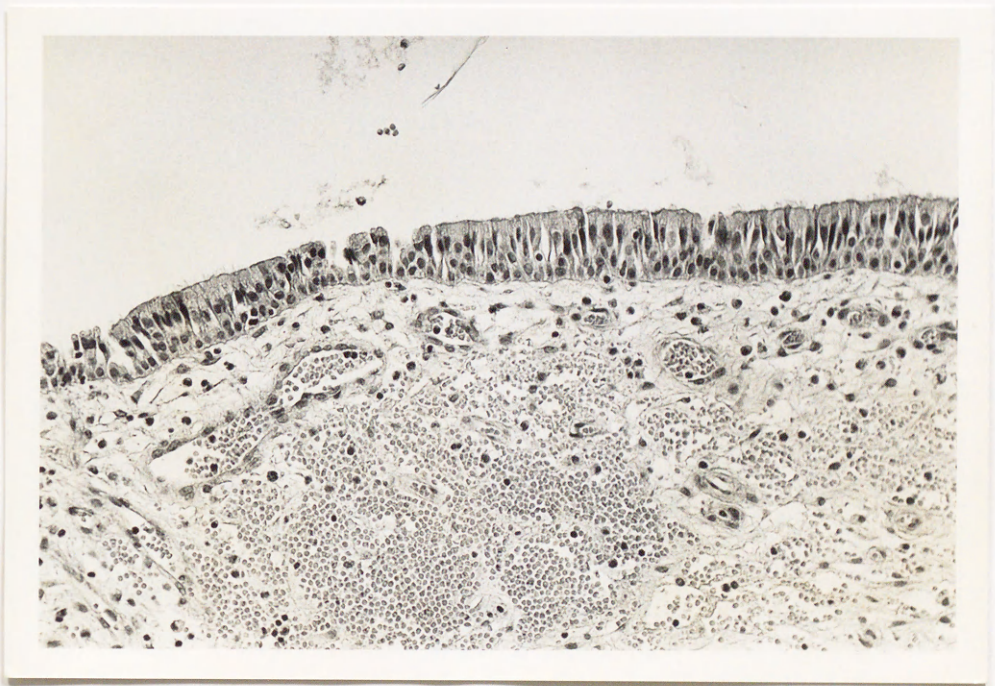
上皮細胞の剥離が認められるが、結合組織中に炎症性細胞浸潤、微小血管の増生などの炎症性変化は認められない。





(写真2) ×100 洗浄症例(24回) ♀ 49歳  
炎症 高→低 縮小後摘出術施行

上皮組織及び基底膜は消失して、線維性結合組織のみで構成されているが、肉芽組織の増殖傾向、炎症所見は認められない。



(写真3)    ×100    非洗浄例    ♀    34歳  
初診時炎症 高    上顎洞根治術施行

線毛上皮中に杯細胞が認められる。結合組織中には浮腫、微小血管の増生が認められ、強い炎症所見を示している。

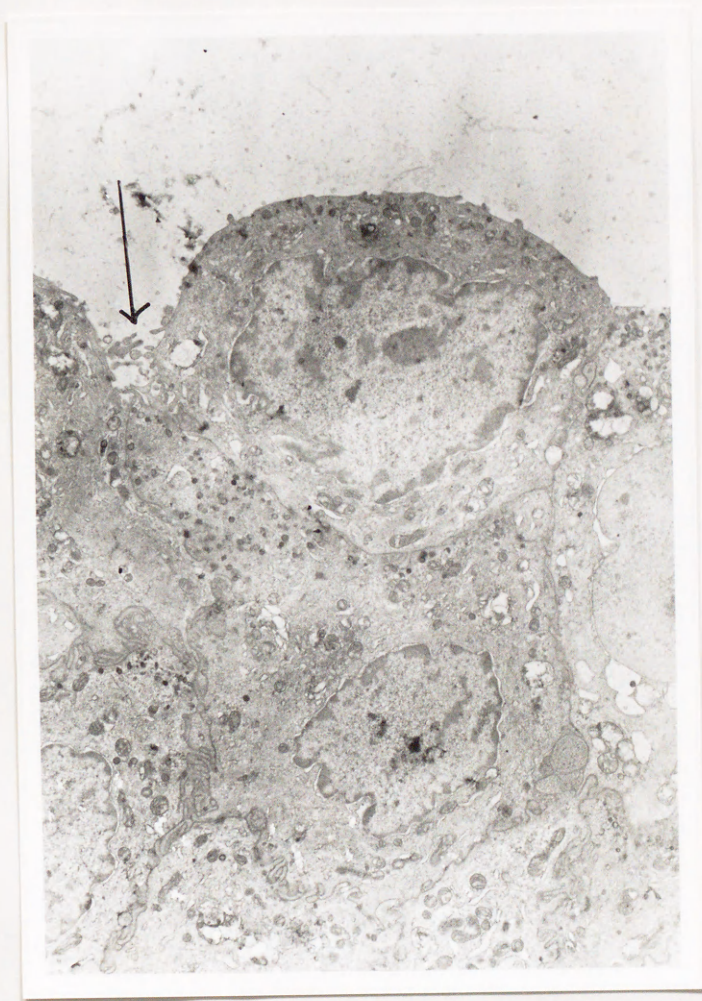




(写真4) ×100 非洗浄例 ♂ 63歳  
初診時炎症 高 上顎洞根治術施行

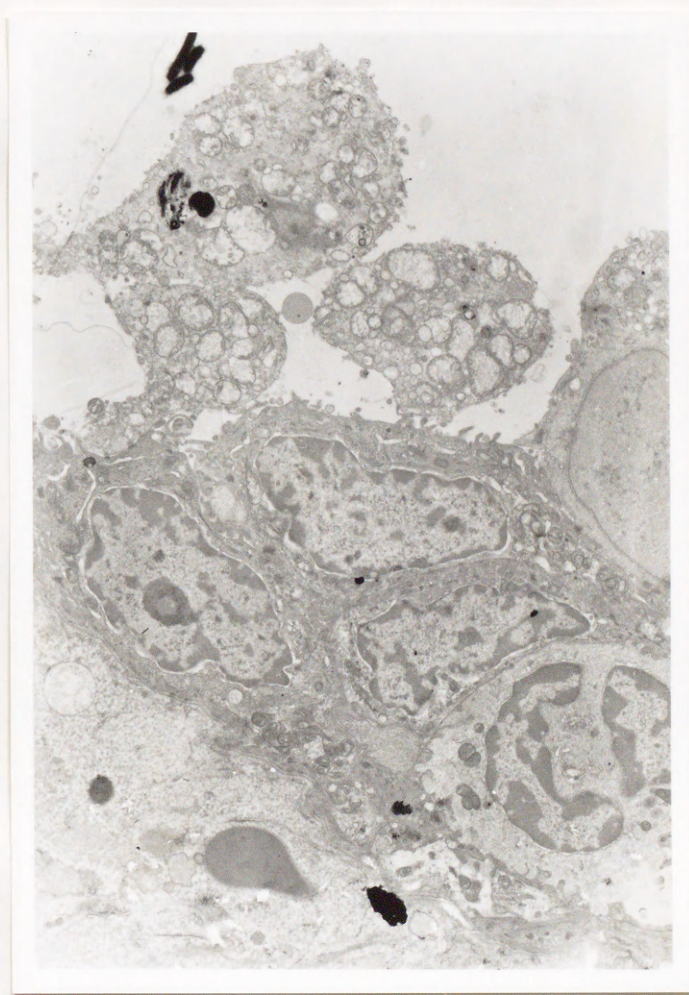
上皮層の変性剥離が認められる。結合組織中には強度の円形細胞浸潤、及び微小血管の増生が認められ、強い炎症所見を示している。





(写真5) ×3000 洗淨症例(79回) 女 41歳  
炎症 高→低 縮小後摘出術施行

嚢胞内腔側の上皮細胞と隣接細胞との側縁に微絨毛が見られるが (arrow)、細胞質、核などには変性の兆候は認められない。



(写真6)    ×3000    非洗浄例    ♂    53歳  
                  初診時炎症    高    上顎洞根治術施行

上皮細胞は剥離が進行している。剥離細胞は細胞小器官の消失が強く、多数の空胞形成を認め、強い変性像を示している。



